

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	秋田工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
	創造システム工学科 (機械システムコース) (知能機械コース)		0	8	2	10	7	
	創造システム工学科 (電気エネルギーシステムコース) (情報・通信ネットワークコース)				1	9		
	創造システム工学科 (マテリアル・プロセス工学コース) (バイオ・アグリ工学コース)				3	11		
	創造システム工学科 (国土防災システムコース) (空間デザインコース)				5	13		
	生産システム工学専攻		7		4	11	7	
	環境システム工学専攻				4	11		
	グローバル地域創生工学専攻 (機械工学コース) (電気情報工学コース) (物質工学コース) (建設工学コース)				15	0		15
(備考) グローバル地域創生工学専攻は令和4年度に設置された。生産システム工学専攻、環境システム工学専攻は令和4年度から学生募集を停止している。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学校HPで公表している。 https://www.akita-nct.ac.jp/syugakushien/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	秋田工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/02_%E4%BA%BA%E4%BA%8B/kisoku/yakuin-20220401.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016年4月1日～ 2024年3月31日	理事長
常勤	豊橋技術科学大学 理事・副学長	2020年4月1日～ 2024年3月31日	国際交流・海外展開 情報システム
非常勤	東京大学教授	2022年4月1日～ 2024年3月31日	男女共同参画
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	秋田工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画(シラバス)の作成過程 事務担当者からの作成依頼に基づき、Web シラバスシステムを活用し、授業担当教員が必要事項を入力している。到達目標、成績評価の方法や基準といった事項については、システムの様式が全高専統一の基準にて設定されているため、遺漏なく入力されている。 ・授業計画の作成・公表時期 授業計画の作成は、12月に授業担当教員に作成依頼を行い、1月と2月に1次締切、2次締切を設けている。公表時期については、Web シラバスシステムを活用しているため、4月に高専機構本部にて一斉に公開設定を行っている。 	
授業計画書の公表方法	<p>インターネット上で公表している。 https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=08</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位授与または履修認定の厳格かつ適正な実施状況 「秋田工業高等専門学校学業成績の評価並びに進級及び卒業の認定に関する規則」に基づき、厳格かつ適正に単位授与及び履修認定を実施している。 <p>【規則6条及び7条抜粋】</p> <p>(試験の成績の評価) 第6条 学期の成績は、その学期において実施した試験の成績及び平素の成績等を総合して100点法により評価する。</p> <p>(学年成績の評価及び評定) 第7条 各科目の学年成績は、当該授業科目の実授業時数の4分の3以上の出席がある科目について、試験の成績及び平素の成績を総合して100点法により評価し、次の区分により優、良、可、不可の評語で評定し、優、良、可を合格とする。出席が当該科目の4分の3に満たない場合は、第1学年から第3学年は49点以下、第4学年及び第5学年は59点以下の点数で評価して、不可と評定する。ただし、運営会議が認める理由(長期病欠その他)で、3分の2以上の出席がある場合については、4分の3以上の出席がある場合と同様に評価し、優、良、可又は不可で評定する。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・客観的な指標の具体的な内容 シラバスに掲載されている指標に基づき、成績提出時に100点満点での点数が科目担当教員から報告されている。その提出された全科目の合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)。 ・客観的な指標の適切な実施状況 100点満点で提出された成績の全科目合計点の平均を算出するとともに、その平均点により席次を決定している。 	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>学校HPで公表している。 https://www.akita-nct.ac.jp/syugakushien/</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

・卒業の認定に関する方針の具体的な内容

○本科ディプロマポリシー (卒業認定方針)

以下の学習教育目標に対する能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。()は校訓・教育理念である。

(A) 人類の幸福

目標：地球環境や人間社会と技術の調和を視野に入れて人類の幸福を考え、技術者倫理を理解し、責任ある行動がとれる。(健康・誠実・責任)

(A-1) 自国と他国の社会と文化の違いを認め、健全で多様な価値観を理解できる。(健康・誠実)

(A-2) 技術者倫理を理解し、技術者として責任ある行動をとることができる。(責任)

(B) 工学基礎知識の修得

目標：生産の現場に不可欠な実践的かつ専門的な知識と技術を有する。

(B-1) 数学、自然科学および情報技術に関する基本的知識を修得している。

(B-2) 基礎工学と専門基礎の知識や技術を修得し、基本的な現象やシステムに対して説明と問題解析ができる。

(C) 専門的知識の充実

目標：自ら問題を発見・解決する能力を備え、生涯に亘って自ら学ぶことができる。(自立・協働・挑戦)

(C-1) 得意とする専門分野の問題を発見し、解決することができる。(自立)

(C-2) 実験・実習科目を通して実践的な知識を身に付ける。

(C-3) 企業での実体験などをもとに、地域や社会の要求している内容を理解できる。(協働)

(C-4) 限られた時間内で、個別に、あるいはチームワークによって、技術的問題を含む課題に取り組み解決することができる。(協働・挑戦)

(D) コミュニケーション能力

目標：産業社会におけるグローバル化に対応するため、正しい日本語で表現(記述・口述・討論)し、かつ国際的に通用するプレゼンテーション能力を有する。

(D-1) 正しい日本語で表現(記述・口述・討論)することができる。

(D-2) 英語によるコミュニケーションに必要な基本的能力を身に付ける。

(E) 技術の発展

目標：複雑で多岐に亘る工業技術分野に貢献できる技術を有し、融合複合領域にも対応できる能力を備える。(挑戦・創造・研究)

(E-1) 専門領域および複合領域の専門知識を統合して、目的を達成するための問題解決とデザインに寄与できる。(挑戦)

(E-2) 技術分野の問題を理解し、自主的継続的に学びながら、開発・研究を行ってゆくことができる。(創造・研究)

これら (A)～(E)の能力を備えるため、一般科目 80 単位以上、専門科目 87 単位以上、合計 167 単位以上の科目を修得すること。

各系および各コースの学生が卒業時に身に付けるべき能力を以下に示す(育成人物像)。

【機械系】

機械工学のあらゆる基礎を習得し、機械システムコースと知能機械コースのいずれかに関する専門性を持つことにより、融合複合領域の専門知識を有し、ものづくり経験を蓄積して物事の本質を見極め、新しい物と技術を生み出す技術者として、創造的で効率的な社会生産活動を協働して行うことができる。

(機械システムコース)

機械工学のあらゆる基礎を習得し、ものづくり経験を蓄積して物事の本質を見極め、新エネルギーや自動車航空機産業、素材加工に関する高度な技術要請に柔軟に対応して先進的な物と機能を生み出すことができる。融合複合領域の専門知識を有し、創造的で効率的な社会生産活動を協働して行うことができる。

(知能機械コース)

機械工学および電子、情報、制御に関する基礎を習得し、ものづくり経験を蓄積して物事の本質を見極め、医療機械、福祉機械のようなニーズにしっかりと対応して新たなタイプの知能機械を生み出すことができる。融合複合領域の専門知識を有し、創造的で効率的な社会生産活動を協働して行うことができる。

【電気・電子・情報系】

電気エネルギーと情報通信の有効活用に関して基盤となる電気情報工学分野の知識を習得して、電気および情報通信を利用する融合複合領域の専門知識を統合し、課題解決のための方法を模索・実行するとともに新しい技術を生み出すことができる。

(電気エネルギーシステムコース)

新しい電子材料の創製と、電子回路およびエレクトロニクスデバイス、電気回路、電気エネルギー、電気-機械変換など、持続的発展型社会の基盤となる電気エネルギーの発生と供給、それを利用する機器とシステムに関する専門知識を有する実践的創造能力を発揮することができる。

(情報・通信ネットワークコース)

ソフトウェア技術を中心にしたコンピュータから情報ネットワークなど、高度情報化社会の基盤となる情報処理と通信などの情報システムに関する専門知識を有する実践的創造能力を発揮することができる。

【物質・生物系】

物質・生物に係る基礎専門知識を習得し、高機能マテリアルの創製や物質循環に係る元素・生物資源の転換利用など、最先端技術に対応できる柔軟な思考力と創造力、実践力を身に付けており、さらに、医農工連携などの融合複合領域に関する専門知識を修得して、グローバル展開する産業の中で活躍できる。

(マテリアル・プロセス工学コース)

有機化学、無機化学、分析化学、物理化学などの基礎専門知識を兼ね備え、機能性マテリアルの合成や評価、工業化された製造プロセスの運転・最適化など、最先端の融合分野に深く関わる高度な実践的技術を有し、持続可能な社会の実現に貢献することができる。

(バイオ・アグリ工学コース)

生物化学、分析化学、分子生物学などの基礎専門知識を兼ね備え、生物を活用した有用物質の生産や評価、バイオマスの変換利用など、最先端のバイオテクノロジーに

深く関わる高度な実践的技術を有し、持続可能な社会の実現に貢献することができる。

【土木・建築系】

道路、橋梁、河川、港湾、宅地造成地などの防災と保全技術、建築・都市に関する計画とデザイン、設計、およびこれら社会基盤の施工と維持管理のための技術を総合的に理解して、融合複合領域の専門知識を有し、課題解決のための方法を探し出し実行できる。

（国土防災システムコース）

社会基盤の防災と保全技術を支える実践的かつ専門的な知識と技術を理解し、課題解決のための方法を模索・実行することができる。

（空間デザインコース）

建築および都市に関して、実践的かつ専門的な知識と技術を理解し、課題解決のための方法を模索・実行することができる。

○専攻科ディプロマポリシー（修了認定方針）

専攻科では、複数の領域をまとめる総合力、複雑で多岐に亘る領域に求められるシステム思考、複合領域にも対応できる能力を備え、技術者倫理を理解し、修得した高度で実践的な知識と技術を背景に、既存技術の発展や新たな技術の開発をし、様々なアプローチの仕方により限られた時間内で技術的問題を含む課題に取組み、現時点での最良の解決策を導出できる人物を養成する。

以下の学習教育目標に対する能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して修了を認定する。

- 1) 自ら問題を発見・解決する能力を備え、生涯に亘って社会で活躍することができる。
- （2）産業社会におけるグローバル化に対応するため、正しい日本語かつ国際的に通用する言語力で表現（記述・口述・討論）し、プレゼンテーションができる。
- （3）技術者倫理を理解し、協働や異文化理解により複雑で多岐にわたる工業技術分野に貢献できる技術をデザインし、複合領域にも対応できる。

各専攻の学生が修了時に身に付けるべき能力を以下に示す。

（生産システム工学専攻）

生産システム工学専攻では、準学士課程で修得した基礎および専門技術に加え、機械工学、電気情報工学を基礎とした精密加工、システム工学、熱流体エネルギー、応用力学、エレクトロニクス、情報、制御、新素材などを含む先端科学技術に深く関わるより専門的な学術分野に精通するとともにプレゼンテーション能力を身につけ、技術者として国際分野で活躍できる。

（環境システム工学専攻）

環境システム工学専攻では、準学士課程で修得した基礎および専門技術に加え、物質・材料工学、環境都市工学を基礎とした無機材料、有機材料、微生物工学、水環境工学、環境地盤工学、環境地域計画学などを含む先端科学技術に深く関わるより専門的な学術分野に精通するとともにプレゼンテーション能力を身につけ、技術者として国際分野で活躍できる。

これらの能力を備えるため、一般科目 12 単位以上、専門科目 50 単位以上、合計 62 単位以上の科目を修得すること。

・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況

各学科における教育課程表に基づき、一般科目及び専門科目の合計 167 単位以上を卒業に必要な単位数と定めている。

また、「秋田工業高等専門学校学業成績の評価並びに進級及び卒業の認定に関する規則」に基づき、教務委員会の審議に付し、学業成績及び特別教育活動の履修状況等を統合して、運営会議にて認定している。

・修了の認定に関する方針の適切な実施状況

各専攻における教育課程表に基づき合計 62 単位以上を修了に必要な単位数と定めている。

また、「秋田工業高等専門学校専攻科授業科目履修規則」に基づき、専攻科教務委員会の審議を経て、運営会議にて認定している

(グローバル地域創生工学専攻)

[専攻科ディプロマポリシー (修了認定方針)]

準学士課程で修得した専門性に加え、専攻科課程では、その専門性をより細分化・深化させ、人材育成像に示された人材を育成するため、以下に示す4つの能力を身につける。

- 深化したより高度な専門知識と技術を獲得する能力
- 複数の領域をまとめる総合力により、異分野との境界領域に見出される融合なくしては存在しないもの・ことをデザインできる能力
- 予測不可能なことへの対応能力を備え、技術者倫理と危機管理を理解し、修得した高度で実践的な知識と技術を背景に既存技術の転換や革新的な技術の開発をし、必要に応じた知識と技術を活用して課題を発掘しこれに取り組む能力
- 他者とのコミュニケーション、協同、異文化理解の姿勢を有する技術者としてグローバルな視野をもってローカルな地で活躍するための最良の解決策を導出し、実践できる能力

これらの能力を身につけ、一般科目 12 単位以上、専門科目 50 単位以上、合計 62 単位以上の科目を修得した学生に対して課程修了を認定することとする。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

学校HPで公表している。
<https://www.akita-nct.ac.jp/school/rinen/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	秋田工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoR2.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoR2.pdf
財産目録	
事業報告書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/R2jigyohoukoku.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/kansaR2.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和4年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/01_%E7%B7%8F%E5%8B%99/r4-keikaku.pdf
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:平成31年(2019年)4月1日から令和6年(2024年)3月31日まで)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/chuukikeikaku-4th.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:学校HPで公表している。 https://www.akita-nct.ac.jp/data/evaluation/
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:公表方法:学校HPで公表している。 https://www.akita-nct.ac.jp/evaluation/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 創造システム工学科
教育研究上の目的 (公表方法: https://www.akita-nct.ac.jp/school/rinen/)
(概要) 教育理念 自立した人間形成, 新しいことへ挑戦する心, 自由な発想を実現する創造力の育成 教育目標 社会が必要とする人材の養成
卒業の認定に関する方針 (公表方法: 学校HPで公表している。 https://www.akita-nct.ac.jp/school/rinen/)
(概要) ○本科ディプロマポリシー (卒業認定方針) 以下の学習教育目標に対する能力を身に付け, 所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。()は校訓・教育理念である。 (A) 人類の幸福 目標: 地球環境や人間社会と技術の調和を視野に入れて人類の幸福を考え, 技術者倫理を理解し, 責任ある行動がとれる。(健康・誠実・責任) (A-1) 自国と他国の社会と文化の違いを認め, 健全で多様な価値観を理解できる。(健康・誠実) (A-2) 技術者倫理を理解し, 技術者として責任ある行動をとることができる。(責任) (B) 工学基礎知識の修得 目標: 生産の現場に不可欠な実践的かつ専門的な知識と技術を有する。 (B-1) 数学, 自然科学および情報技術に関する基本的知識を修得している。 (B-2) 基礎工学と専門基礎の知識や技術を修得し, 基本的な現象やシステムに対して説明と問題解析ができる。 (C) 専門的知識の充実 目標: 自ら問題を発見・解決する能力を備え, 生涯に亘って自ら学ぶことができる。 (自立・協働・挑戦) (C-1) 得意とする専門分野の問題を発見し, 解決することができる。(自立) (C-2) 実験・実習科目を通して実践的な知識を身に付ける。 (C-3) 企業での実体験などをもとに, 地域や社会の要求している内容を理解できる。(協働) (C-4) 限られた時間内で, 個別に, あるいはチームワークによって, 技術的問題を含む課題に取り組み解決することができる。(協働・挑戦) (D) コミュニケーション能力 目標: 産業社会におけるグローバル化に対応するため, 正しい日本語で表現(記述・口述・討論)し, かつ国際的に通用するプレゼンテーション能力を有する。 (D-1) 正しい日本語で表現(記述・口述・討論)することができる。 (D-2) 英語によるコミュニケーションに必要な基本的能力を身に付ける。

(E) 技術の発展

目標：複雑で多岐に亘る工業技術分野に貢献できる技術を有し、融合複合領域にも対応できる能力を備える。（挑戦・創造・研究）

(E-1) 専門領域および複合領域の専門知識を統合して、目的を達成するための問題解決とデザインに寄与できる。（挑戦）

(E-2) 技術分野の問題を理解し、自主的継続的に学びながら、開発・研究を行ってゆくことができる。（創造・研究）

これら (A)～(E)の能力を備えるため、一般科目 80 単位以上、専門科目 87 単位以上、合計 167 単位以上の科目を修得すること。

各系および各コースの学生が卒業時に身に着けるべき能力を以下に示す（育成人物像）。

【機械系】

機械工学のあらゆる基礎を習得し、機械システムコースと知能機械コースのいずれかに関する専門性を持つことにより、融合複合領域の専門知識を有し、ものづくり経験を蓄積して物事の本質を見極め、新しい物と技術を生み出す技術者として、創造的で効率的な社会生産活動を協働して行うことができる。

（機械システムコース）

機械工学のあらゆる基礎を習得し、ものづくり経験を蓄積して物事の本質を見極め、新エネルギーや自動車航空機産業、素材加工に関する高度な技術要請に柔軟に対応して先進的な物と機能を生み出すことができる。融合複合領域の専門知識を有し、創造的で効率的な社会生産活動を協働して行うことができる。

（知能機械コース）

機械工学および電子、情報、制御に関する基礎を習得し、ものづくり経験を蓄積して物事の本質を見極め、医療機械、福祉機械のようなニーズにしっかりと対応して新たなタイプの知能機械を生み出すことができる。融合複合領域の専門知識を有し、創造的で効率的な社会生産活動を協働して行うことができる。

【電気・電子・情報系】

電気エネルギーと情報通信の有効活用に関して基盤となる電気情報工学分野の知識を習得して、電気および情報通信を利用する融合複合領域の専門知識を統合し、課題解決のための方法を模索・実行するとともに新しい技術を生み出すことができる。

（電気エネルギーシステムコース）

新しい電子材料の創製と、電子回路およびエレクトロニクスデバイス、電気回路、電気エネルギー、電気-機械変換など、持続的発展型社会の基盤となる電気エネルギーの発生と供給、それを利用する機器とシステムに関する専門知識を有する実践的創造能力を発揮することができる。

（情報・通信ネットワークコース）

ソフトウェア技術を中心にしたコンピュータから情報ネットワークなど、高度情報化社会の基盤となる情報処理と通信などの情報システムに関する専門知識を有する実践的創造能力を発揮することができる。

【物質・生物系】

物質・生物に係る基礎専門知識を習得し、高機能マテリアルの創製や物質循環に係る元素・生物資源の転換利用など、最先端技術に対応できる柔軟な思考力と創造力、実践力を身に付けており、さらに、医農工連携などの融合複合領域に関する専門知識を修得して、グローバル展開する産業の中で活躍できる。

(マテリアル・プロセス工学コース)

有機化学，無機化学，分析化学，物理化学などの基礎専門知識を兼ね備え，機能性マテリアルの合成や評価，工業化された製造プロセスの運転・最適化など，最先端の融合分野に深く関わる高度な実践的技術を有し，持続可能な社会の実現に貢献することができる。

(バイオ・アグリ工学コース)

生物化学，分析化学，分子生物学などの基礎専門知識を兼ね備え，生物を活用した有用物質の生産や評価，バイオマスの変換利用など，最先端のバイオテクノロジーに深く関わる高度な実践的技術を有し，持続可能な社会の実現に貢献することができる。

【土木・建築系】

道路，橋梁，河川，港湾，宅地造成地などの防災と保全技術，建築・都市に関する計画とデザイン，設計，およびこれら社会基盤の施工と維持管理のための技術を総合的に理解して，融合複合領域の専門知識を有し，課題解決のための方法を探し出し実行できる。

(国土防災システムコース)

社会基盤の防災と保全技術を支える実践的かつ専門的な知識と技術を理解し，課題解決のための方法を模索・実行することができる。

(空間デザインコース)

建築および都市に関して，実践的かつ専門的な知識と技術を理解し，課題解決のための方法を模索・実行することができる

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法:学校HPで公表している。<https://www.akita-nct.ac.jp/school/rinen/>)

(概要)

○本科カリキュラムポリシー (教育課程編成方針)

ディプロマポリシー (卒業認定方針) に掲げた能力を養成するため，一般科目と専門科目を各学年に系統的に配置し，以下の学習教育目標に沿ったカリキュラムを編成する (具体的な科目配置は別に定める)。

(A) 人類の幸福

(A-1) 健全で多様な価値観を理解できるように，全学年を通して人文科学系科目を配置する。

(A-2) 技術者として責任ある行動をとることができるように，5年次に技術者倫理を配置する。

(B) 工学基礎知識の修得

(B-1) 数学，自然科学および情報技術に関する基本的知識を修得できるように，全学年を通して自然科学系科目と情報基礎科目を配置する。

(B-2) 基礎工学と専門基礎の知識や技術を修得するために，低・中学年次に専門基礎科目を配置する。

(C) 専門的知識の充実

- (C-1) 専門分野の問題を発見し、解決することができるように、高学年次に専門科目および複合融合科目を配置する。
- (C-2) 実践的な知識を身に付けるために、全学年を通して実験・実習科目を配置する。
- (C-3) 地域や社会の要求している内容を理解できるように、高学年次に特別講義と技術者倫理、校外実習を配置する。
- (C-4) 個別に、あるいはチームワークによって、技術的問題を含む課題に取り組み解決することができるように、全学年を通して体育科目、高学年次では基礎研究、卒業研究を配置する。

(D) コミュニケーション能力

- (D-1) 正しい日本語で表現することができるように、全学年を通して国語科目および演習、実験・実習科目を配置する。
- (D-2) 英語によるコミュニケーションに必要な基本的能力を身に付けるために、全学年を通して英語科目を配置する。

(E) 技術の発展

- (E-1) 専門領域および複合領域の専門知識を統合して、目的を達成するための問題解決とデザインに寄与できるように、全学年を通して演習科目および基礎研究、卒業研究を配置する。
- (E-2) 技術分野の問題を理解し、自主的継続的に学びながら、開発・研究を行ってゆくことができるように、高学年次に基礎研究、卒業研究を配置する。

ディプロマポリシー（卒業認定方針）に掲げた各系および各コースの卒業時に身に着ける能力を育成するために以下の方針に沿ったカリキュラムを編成する。

(機械系と機械システムコース)

機械系と機械システムコースでは学際領域を含めて高度な知識を有しており、技術課題に対して最善な解決策を提案し、それを実現してゆく創造性豊かな技術者を養成するために、力学、機械設計、製図、製作等の応用知識に加えて、材料力学、流体力学、熱力学、情報・制御、電気・電子、新材料等の高度な素材加工や動力変換、種々の新エネルギー変換に関する基礎および応用技術を習得できるように専門科目を配置する。

(機械系と知能機械コース)

機械系と知能機械コースでは学際領域を含めて高度な知識を有しており、技術課題に対して最善な解決策を提案し、それを実現してゆく創造性豊かな技術者を養成するために、力学、機械設計、製図、製作等の応用知識に加えて、材料力学、流体力学、熱力学、電子、情報、制御に関する基礎および応用知識、人体構造や不安を持つ人の心理学、社会科学を習得するとともに、これらを融合させた人に優しいロボット工学の技術を習得できるように専門科目を配置する。

(電気・電子・情報系と電気エネルギーシステムコース)

電気・電子・情報系と電気エネルギーシステムコースでは学際領域を含めて高度な知識を有しており、技術課題に対して最善な解決策を提案し、それを実現してゆく創造性豊かな技術者を養成するために、電気回路、電気磁気学、電気機器学、電子回路、電子工学、制御工学、組込み技術等を系統的に習得させるとともに、基礎的な融合複合領域の知識を備えた創造性に富む実践力を習得できるように専門科目を配置する。

(電気・電子・情報系と情報・通信ネットワークコース)

電気・電子・情報系と情報・通信ネットワークコースでは学際領域を含めて高度な知識を有しており、技術課題に対して最善な解決策を提案し、それを実現してゆく創造性豊かな技術者を養成するために、コンピュータシステム、プログラミング、ネットワーク、アルゴリズム、組込み系プログラム等を系統的に習得させるとともに、基礎的な融合複合領域の知識を備えた創造性に富む実践力を習得できるように専門科目を配置する。

(物質・生物系とマテリアル・プロセス工学コース)

物質・生物系とマテリアル・プロセス工学コースでは学際領域を含めて高度な知識を有しており、技術課題に対して最善な解決策を提案し、それを実現してゆく創造性豊かな技術者を養成するために、有機・無機工業化学、無機材料化学、有機合成化学、化学工学、プロセス工学などの専門知識を習得させ、これらの知識のもと、実験実習を通して、機能材料の合成プロセスや化学物質の製造・開発・管理、エネルギー資源の精製、化成品製造、化学プラントのスケールアップ・改良などの応用技術について、実践力を習得できるように専門科目を配置する。

(物質・生物系とバイオ・アグリ工学コース)

物質・生物系とバイオ・アグリ工学コースでは学際領域を含めて高度な知識を有しており、技術課題に対して最善な解決策を提案し、それを実現してゆく創造性豊かな技術者を養成するために、生物有機化学、生物化学工学、アグリサイエンス、バイオ工学、高分子化学などの専門知識を習得させ、これらの知識のもと、実験実習を通して、バイオプロセスに関わる酵素機能変換、微生物生産、食品素材開発、バイオマスなどの天然物の単離精製、生理活性物質の生産、機能性高分子合成などの応用技術について、実践力を習得できるように専門科目を配置する。

(土木・建築系と国土防災システムコース)

土木・建築系と国土防災システムコースでは学際領域を含めて高度な知識を有しており、技術課題に対して最善な解決策を提案し、それを実現してゆく創造性豊かな技術者を養成するために、社会基盤の防災と保全技術を支える施設の計画・設計・施工および完成した施設の維持管理と再生のための技術を習得できるように専門科目を配置する。

(土木・建築系と空間デザインコース)

土木・建築系と空間デザインコースでは学際領域を含めて高度な知識を有しており、技術課題に対して最善な解決策を提案し、それを実現してゆく創造性豊かな技術者を養成するために、建築および都市に関する企画・計画・設計・構造・設備・施工・制度・管理のための技術を習得できるように専門科目を配置する。

なお、カリキュラムの実施においては、以下の通りとする。

1. 1単位あたりの授業時数は、90分×15回を標準とする。
2. 自学自習や様々な授業形態における教育効果を考慮し、自学自習を含めて1単位あたり45時間の学習を要する「学修単位」科目を効率的に導入する。また、教育効果を上げるため授業形態は講義70%、演習15%、実験実習15%程度の割合で実施する。

3. 講義科目は定期試験の結果とレポートなどの平素の取り組みを総合して成績を評価する。演習・実技・実験・実習科目は課題への取り組み状況，レポート，発表などを総合して成績を評価する。卒業研究は研究成果をまとめた論文，研究発表，研究に対する姿勢などを総合して評価する。
4. 各科目の概要，到達目標，成績評価方法などはシラバスに明示する。
5. 成績はシラバスに記載された評価方法により行い，次の表の評価基準にしたがって評価し，1～3年次は50点以上，4～5年次は60点以上を合格と評価する。

学年	第1学年から第3学年	第4学年及び第5学年
評語		
優	100点～80点	100点～80点
良	79点～60点	79点～65点
可	59点～50点	64点～60点
不可	49点～0点	59点～0点

入学者の受入れに関する方針

(公表方法:学校HPで公表している。<https://www.akita-nct.ac.jp/school/rinen/>)

(概要)

○本科アドミッションポリシー (入学者受け入れ方針)

本校では，自立・挑戦・創造を教育理念に掲げ，社会が必要とする人材の養成を目的として，創造性豊かな技術者の育成を目指しています。そのために本校では一般科目と専門科目からなる5年間の一貫教育を行うため，以下のような人を求めています。

(求める学生像)

1. 中学卒業レベルの知識・技能を有し，同等レベルの思考力・判断力・表現力などの能力を身につけている人
2. 理数系に興味のある人
3. 新しいことを知りたい，理解したいという学習意欲のある人
4. 自ら新しいことに取り組むなど，チャレンジ精神旺盛な人
5. 協働して物事に取り組み，ものづくりに関心のある人

(入学者選抜方針)

本校では，調査書に重点を置くとともに作文と面接により人物を見極める推薦選抜，および国語・数学・理科・英語の学力試験に重点を置くとともに調査書により人物を見極める学力選抜，および数学・理科・英語の学力試験に重点を置くとともに調査書により人物を見極める帰国生徒特別選抜を行うことにより入学者を決定する。

学部等名 生産システム工学専攻

教育研究上の目的

(公表方法:学校HPで公表している。<https://www.akita-nct.ac.jp/school/rinen/>)

(概要)

教育理念

自立した人間形成，新しいことへ挑戦する心，自由な発想を実現する創造力の育成

教育目標

社会が必要とする人材の養成

卒業の認定に関する方針

(公表方法：学校HPで公表している。 <https://www.akita-nct.ac.jp/school/rinen/>)

(概要)

○専攻科ディプロマポリシー（修了認定方針）

専攻科では、複数の領域をまとめる総合力、複雑で多岐に亘る領域に求められるシステム思考、複合領域にも対応できる能力を備え、技術者倫理を理解し、修得した高度で実践的な知識と技術を背景に、既存技術の発展や新たな技術の開発をし、様々なアプローチの仕方により限られた時間内で技術的問題を含む課題に取り組み、現時点での最良の解決策を導出できる人物を養成する。

以下の学習教育目標に対する能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して修了を認定する。

- (1) 自ら問題を発見・解決する能力を備え、生涯に亘って社会で活躍することができる。
- (2) 産業社会におけるグローバル化に対応するため、正しい日本語かつ国際的に通用する言語力で表現（記述・口述・討論）し、プレゼンテーションができる。
- (3) 技術者倫理を理解し、協働や異文化理解により複雑で多岐にわたる工業技術分野に貢献できる技術をデザインし、複合領域にも対応できる。

各専攻の学生が修了時に身に付けるべき能力を以下に示す。

(生産システム工学専攻)

生産システム工学専攻では、準学士課程で修得した基礎および専門技術に加え、機械工学、電気情報工学を基礎とした精密加工、システム工学、熱流体エネルギー、応用力学、エレクトロニクス、情報、制御、新素材などを含む先端科学技術に深く関わるより専門的な学術分野に精通するとともにプレゼンテーション能力を身につけ、技術者として国際分野で活躍できる。

これらの能力を備えるため、一般科目 12 単位以上、専門科目 50 単位以上、合計 62 単位以上の科目を修得すること。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：学校HPで公表している。 <https://www.akita-nct.ac.jp/school/rinen/>)

(概要)

○専攻科カリキュラムポリシー（教育課程編成方針）

ディプロマポリシー（修了認定方針）に掲げた能力を養成するため、一般科目と専門科目を体系的に配置し、以下の学習教育目標に沿ったカリキュラムを編成する。

- (1) 自ら問題を発見・解決する能力を備え、生涯に亘って社会で活躍することのできる能力を修得するために、特別実験、創造工学演習、特別研究を設ける。
- (2) 産業社会におけるグローバル化に対応するため、正しい日本語かつ国際的に通用する言語力で表現（記述・口述・討論）し、プレゼンテーション能力を修得するために、外国語科目、人文科学系科目を設ける。
- (3) 技術者倫理を理解し、協働や異文化理解により複雑で多岐にわたる工業技術分野に貢献できる技術をデザインし、複合領域にも対応できる能力を修得するために、応用数学、専門共通科目、専門専攻科目を設ける。

各専攻では、ディプロマポリシー（修了認定方針）に掲げた技術者を養成するために以下の方針に沿ったカリキュラムを編成する。

(生産システム工学専攻)

生産システム工学専攻では、機械工学、電気情報工学を基礎とした精密加工、システム工学、熱流体エネルギー、応用力学、エレクトロニクス、情報、制御、新素材などを含む先端科学技術に深く関わる高度な科学技術を修得するために専門共通科目、専門専攻科目を設ける。特に、機械工学、電気情報工学の複合領域におけるメカトロニクス技術者として必要となる総合力・システム思考能力を含めた創造力を身につけるために創造工学演習、特別研究を設ける。

カリキュラムの実施においては、以下の通りとする。

授業科目の1単位は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを基準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算する。

- ① 講義および演習については、15時間から30時間までの範囲で本校が定める時間の授業をもって1単位とする。
- ② 実験、実習および実技については、30時間から45時間までの範囲で本校が定める時間の授業をもって1単位とする。
- ③ 試験は、原則として前期末および後期末に行うが、授業科目によっては、平素の成績またはレポート等をもって代えることがある。
- ④ 成績は、授業科目ごとに、当該授業科目の実授業時数の4分の3以上の出席がある科目について、試験の成績および平素の成績を総合して100点法によって評価し、次の区分によって優、良、可または不可の評語で表し、優、良、可を合格とする。出席が当該授業科目の4分の3に満たない場合は、59点以下の点数で評価して、不可と判定する。

評語	評定区分
優	80点以上
良	65点以上79点まで
可	60点以上64点まで
不可	59点以下

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：学校HPで公表している。<https://www.akita-nct.ac.jp/school/rinen/>)

(概要)

○専攻科アドミッションポリシー (入学者受け入れ方針)

本校では、自立・挑戦・創造を教育理念に掲げ、社会が必要とする人材の養成を目的として、創造性豊かな技術者の育成を目指しています。本校では本科5年間と専攻科2年間の7年間を通じた教育を行うため、以下のような人を求めています。

(生産システム工学専攻)

(求める人物像)

1. 基礎専門学力を有し、実践的技術を支える機械工学・電気電子情報工学分野を中心とした先端知識と技能の修得に意欲のある人
2. 複合領域の科学技術に興味を持ち、研究開発に主体的に取り組む意欲のある人
3. 技術者倫理を身につけ、異分野との交流・協働によって地域および社会の課題発見およびその解決に貢献したい人

(入学者選抜方針)

生産システム工学専攻では、調査書に重点を置くとともに一般科目および機械工学・電気電子情報工学分野の専門科目の口頭試問と面接により人物を見極める推薦選抜、一般科目（英語はTOEICによる評価）・専門科目の学力試験に重点を置くとともに調査書と面接により人物を見極める学力選抜、および面接（口頭試問を含む）に重点を置くとともに調査書等の評価により人物を見極める社会人特別選抜を行うことにより入学者を決定する。

学部等名 環境システム工学専攻

教育研究上の目的

(公表方法：学校HPで公表している。 <https://www.akita-nct.ac.jp/school/rinen/>)

(概要)

教育理念

自立した人間形成、新しいことへ挑戦する心、自由な発想を実現する創造力の育成

教育目標

社会が必要とする人材の養成

卒業の認定に関する方針

(公表方法：学校HPで公表している。 <https://www.akita-nct.ac.jp/school/rinen/>)

(概要)

○専攻科ディプロマポリシー（修了認定方針）

専攻科では、複数の領域をまとめる総合力、複雑で多岐に亘る領域に求められるシステム思考、複合領域にも対応できる能力を備え、技術者倫理を理解し、修得した高度で実践的な知識と技術を背景に、既存技術の発展や新たな技術の開発をし、様々なアプローチの仕方により限られた時間内で技術的問題を含む課題に取り組み、現時点での最良の解決策を導出できる人物を養成する。

以下の学習教育目標に対する能力を身に着け、所定の単位を修得した学生に対して修了を認定する。

- (1) 自ら問題を発見・解決する能力を備え、生涯に亘って社会で活躍することができる。
- (2) 産業社会におけるグローバル化に対応するため、正しい日本語かつ国際的に通用する言語力で表現（記述・口述・討論）し、プレゼンテーションができる。
- (3) 技術者倫理を理解し、協働や異文化理解により複雑で多岐にわたる工業技術分野に貢献できる技術をデザインし、複合領域にも対応できる。

各専攻の学生が修了時に身に着けるべき能力を以下に示す。

(環境システム工学専攻)

環境システム工学専攻では、準学士課程で修得した基礎および専門技術に加え、物質・材料工学、環境都市工学を基礎とした無機材料、有機材料、微生物工学、水環境工学、環境地盤工学、環境地域計画学などを含む先端科学技術に深く関わるより専門的な学術分野に精通するとともにプレゼンテーション能力を身につけ、技術者として国際分野で活躍できる。

これらの能力を備えるため、一般科目 12 単位以上、専門科目 50 単位以上、合計 62 単位以上の科目を修得すること。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：学校HPで公表している。 <https://www.akita-nct.ac.jp/school/rinen/>)

(概要)

○専攻科カリキュラムポリシー（教育課程編成方針）

ディプロマポリシー（修了認定方針）に掲げた能力を養成するため、一般科目と専門科目を体系的に配置し、以下の学習教育目標に沿ったカリキュラムを編成する。

- (1) 自ら問題を発見・解決する能力を備え、生涯に亘って社会で活躍することのできる能力を修得するために、特別実験，創造工学演習，特別研究を設ける。
- (2) 産業社会におけるグローバル化に対応するため、正しい日本語かつ国際的に通用する言語力で表現（記述・口述・討論）し、プレゼンテーション能力を修得するために、外国語科目，人文科学系科目を設ける。
- (3) 技術者倫理を理解し，協働や異文化理解により複雑で多岐にわたる工業技術分野に貢献できる技術をデザインし，複合領域にも対応できる能力を修得するために，応用数学，専門共通科目，専門専攻科目を設ける。

各専攻では、ディプロマポリシー（修了認定方針）に掲げた技術者を養成するために以下の方針に沿ったカリキュラムを編成する。

(環境システム工学専攻)

環境システム工学専攻では、物質・材料工学，環境都市工学を基礎とした無機材料，有機材料，微生物工学，水環境工学，環境地盤工学，環境地域計画学などを含む先端科学技術に深く関わる高度な科学技術を修得するために専門共通科目，専門専攻科目を設ける。特に，無機材料・有機材料・生物材料を利用した水環境改善のための処理技術や物質循環・エコマテリアル工学などの物質工学，環境都市工学の複合領域における創造性豊かな技術者として必要な総合力・システム思考能力を含めた創造力を身につけるために創造工学演習，特別研究を設ける。

カリキュラムの実施においては、以下の通りとする。

授業科目の1単位は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを基準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算する。

- ① 講義および演習については、15時間から30時間までの範囲で本校が定める時間の授業をもって1単位とする。
- ② 実験，実習および実技については、30時間から45時間までの範囲で本校が定める時間の授業をもって1単位とする。
- ③ 試験は、原則として前期末および後期末に行うが、授業科目によっては、平素の成績またはレポート等をもって代えることがある。
- ④ 成績は、授業科目ごとに、当該授業科目の実授業時数の4分の3以上の出席がある科目について、試験の成績および平素の成績を総合して100点法によって評価し、次の区分によって優，良，可または不可の評語で表し，優，良，可を合格とする。出席が当該授業科目の4分の3に満たない場合は，59点以下の点数で評価して，不可と判定する。

評語	評定区分
優	80点以上
良	65点以上79点まで
可	60点以上64点まで
不可	59点以下

<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：学校HPで公表している。https://www.akita-nct.ac.jp/school/rinen/)</p>
<p>(概要)</p> <p>○専攻科アドミッションポリシー（入学受入れ方針） 本校では、自立・挑戦・創造を教育理念に掲げ、社会が必要とする人材の養成を目的として、創造性豊かな技術者の育成を目指しています。本校では本科5年間と専攻科2年間の7年間を通じた教育を行うため、以下のような人を求めています。</p> <p>(環境システム工学専攻) (求める人物像)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎専門学力を有し、実践的技術を支える物質工学・土木工学・建築工学分野を中心とした先端知識の修得に意欲のある人 2. 複合領域の科学技術に興味を持ち、研究開発に主体的に取り組む意欲のある人 3. 技術者倫理を身につけ、異分野との交流・協働によって地域および社会の課題発見およびその解決に貢献したい人 <p>(入学者選抜方針) 環境システム工学専攻では、調査書に重点を置くとともに一般科目および物質工学・土木工学・建築工学分野の専門科目の口頭試問と面接により人物を見極める推薦選抜、一般科目（英語はTOEICによる評価）・専門科目の学力試験に重点を置くとともに調査書と面接により人物を見極める学力選抜、および面接（口頭試問を含む）に重点を置くとともに調査書等の評価により人物を見極める社会人特別選抜を行うことにより入学者を決定する。</p>

<p>学部等名 グローバル地域創生工学専攻</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：学校HPで公表している。https://www.akita-nct.ac.jp/school/rinen/)</p>
<p>(概要)</p> <p>教育理念 自立した人間形成、新しいことへ挑戦する心、自由な発想を実現する創造力の育成</p> <p>教育目標 社会が必要とする人材の養成</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：学校HPで公表している。https://www.akita-nct.ac.jp/school/rinen/)</p>
<p>(概要)</p> <p>[専攻科ディプロマポリシー（修了認定方針）]</p> <p>準学士課程で修得した専門性に加え、専攻科課程では、その専門性をより細分化・深化させ、人材育成像に示された人材を育成するため、以下に示す4つの能力を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○深化したより高度な専門知識と技術を獲得する能力 ○複数の領域をまとめる総合力により、異分野との境界領域に見出される融合なくしては存在しないもの・ことをデザインできる能力 ○予測不可能なことへの対応能力を備え、技術者倫理と危機管理を理解し、修得した高度で実践的な知識と技術を背景に既存技術の転換や革新的な技術の開発をし、必要に応じた知識と技術を活用して課題を発掘しこれに取り組む能力 ○他者とのコミュニケーション、協同、異文化理解の姿勢を有する技術者としてグローバルな視野をもってローカルな地で活躍するための最良の解決策を導出し、実践できる能力

これらの能力を身につけ、一般科目12単位以上、専門科目50単位以上、合計62単位以上の科目を修得した学生に対して課程修了を認定することとする。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：学校HPで公表している。<https://www.akita-nct.ac.jp/school/rinen/>)

(概要)

[専攻科カリキュラムポリシー（教育課程編成方針）]

修了認定方針を達成するために、以下の専攻全体のカリキュラムポリシーを定める。

- 1) 課題を発掘・解決する能力を備え、このためにリベラルアーツを基盤として、自らの専門性の深化と異分野との融合をできる能力を修得する。
- 2) 技術者倫理を理解し、社会の急激な変化に貢献できる専門的な技術を有し、予測不可能なことにも多角的にかつ挑戦するマインドによって対応できる能力を修得する。
- 3) グローバルな視点でローカルに活躍するため、論理を正確に表現でき、かつ国際的にも通用するコミュニケーション能力により、オープンイノベティブな志向性を修得する。

さらに、専攻全体のカリキュラムポリシーに加え、各コースのカリキュラムポリシーを定める。

【機械工学コース】

本科課程の機械システムコースと知能機械コースにおいて修得した専門能力と、専攻科における物理学、数学等の基盤科目、リベラルアーツを基盤とし、他コースの基礎概念を融合化した上で、新たな機械システムや知能機械等の開発・製造並びに応用技術等に深く関わる専門教育を行い、異分野の技術との融合にもチームとして果敢に挑戦し、境界領域における国際的な研究・開発能力によって地域創生に貢献するイノベティブな技術者を育成する。

【電気情報工学コース】

本科課程の電気・電子・情報系、電気エネルギーシステムコースと情報・通信ネットワークコースにおいて修得した専門能力と、専攻科における物理学、数学等の基盤科目、リベラルアーツを基盤とし、他コースの基礎概念を融合化した上で、ICTを駆使した先端デバイスによる電気機器システム並びに応用技術等に深く関わる専門教育を行い、異分野の技術との融合にもチームとして果敢に挑戦し、境界領域における国際的な研究・開発能力によって地域創生に貢献するイノベティブな技術者を育成する。

【物質工学コース】

本科課程の物質・生物系、マテリアル・プロセス工学コースとバイオ・アグリ工学コースにおいて修得した専門能力と、専攻科における物理学、数学等の基盤科目、リベラルアーツを基盤とし、他コースの基礎概念を融合化した上で、新物質・生体由来素材等の製造並びに応用技術等に深く関わる専門教育を行い、異分野の技術との融合にもチームとして果敢に挑戦し、境界領域における国際的な研究・開発能力によって地域創生に貢献するイノベティブな技術者を育成する。

【建設工学コース】

本科課程の土木・建築系、国土防災システムコースまたは空間デザインコースにおいて修得した専門能力と、専攻科における物理学、数学等の基盤科目、リベラルアーツを基盤とし、他コースの基礎概念を融合化した上で、社会基盤の整備・防災・保全技術、都市及び地域の計画・デザイン技術等に深く関わる専門教育を行い、異分野の技術との融合にもチームとして果敢に挑戦し、境界領域における国際的な研究・開発能力によって地域創生に貢献するイノベティブな技術者を育成する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：学校HPで公表している。<https://www.akita-nct.ac.jp/school/rinen/>)

(概要)

[専攻科アドミッションポリシー (入学者受け入れ方針)]

1) 教育理念

グローバル地域創生工学専攻は、急激な社会構造の動きに同調でき、地域との連携活動を発展させた、より具体化・可視化した教育プログラムによって、グローバルな視点を持ちローカルな場での実践や影響力を発揮する高度な技術者等の人材を育成する。

2) グローバル地域創生工学専攻の求める人材像

- ①基礎専門学力を有し、実践的技術を支える先端知識を融合し、境界領域のこれまで未到達の技術をデザインすることに意欲のある人
- ②社会の急激な変化に追従できるだけでなく地域社会のパラダイムシフトを創出することに意欲のある挑戦するマインドを備えた人
- ③地域のオープンイノベーション創出へ接続する志向を有する人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：学校HPで公表している。<https://www.akita-nct.ac.jp/school/soshiki/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4人	—					4人
創造システム工学科	—	11人	29人	9人	5人	人	54人
	—	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		42人					42人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://research.kosen-k.go.jp/researcher-list/?page=1&limit=30&districtId=02&affiliationId=6528000000					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
創造システム工学科	160人	170人	106%	800人	797人	99%	若干名	3人
合計	160人	170人	106%	800人	797人	99%	若干名	3人
生産システム工学専攻	—	—	—	8人	17人	212%	—	—
環境システム工学専攻	—	—	—	8人	1人	12%	—	—
グローバル地域創生工学専攻	16人	25人	156%	16人	25人	156%	—	—
合計	16人	25人	156%	32人	43人	134%	—	—
(備考) グローバル地域創生工学専攻は令和4年度に設置された。生産システム工学専攻、環境システム工学専攻は令和4年度から学生募集を停止している。								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
機械工学科	2人 (100%)	0人 (0%)	2人 (100%)	0人 (0%)
電気情報工学科	2人 (100%)	0人 (0%)	2人 (100%)	0人 (0%)
物質工学科	3人 (100%)	1人 (33.3%)	2人 (66.7%)	0人 (0%)
環境都市工学科	1人 (100%)	0人 (0%)	1人 (100%)	0人 (0%)

創造システム 工学科	141 人 (100%)	58 人 (41.1%)	77 人 (54.6%)	6 人 (4.3%)
合計	149 人 (100%)	59 人 (39.6%)	84 人 (56.4%)	6 人 (4.0%)
生産システム 工学専攻	9 人 (100%)	6 人 (66.7%)	3 人 (33.3%)	0 人 (0%)
環境システム 工学専攻	3 人 (100%)	2 人 (66.7%)	1 人 (33.3%)	0 人 (0%)
合計	12 人 (100%)	8 人 (66.7%)	4 人 (33.3%)	0 人 (0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考) 機械工学科, 電気情報工学科, 物質工学科及び環境都市工学科は, 平成28年度をもって学生募集を停止しており, これらの学科の卒業者は留年生である。				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要) ・授業計画（シラバス）の作成過程</p> <p>事務担当者からの作成依頼に基づき、Web シラバスシステムを活用し、授業担当教員が必要事項を入力している。到達目標、成績評価の方法や基準といった事項については、システムの様式が全高専統一の基準にて設定されているため、遺漏なく入力されている。</p> <p>・授業計画の作成・公表時期</p> <p>授業計画の作成は、12月に授業担当教員に作成依頼を行い、1月と2月に1次締切、2次締切を設けている。公表時期については、Web シラバスシステムを活用しているため、4月に高専機構本部にて一斉に公開設定を行っている。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>・単位授与または履修認定の厳格かつ適正な実施状況</p> <p>「秋田工業高等専門学校学業成績の評価並びに進級及び卒業の認定に関する規則」に基づき、厳格かつ適正に単位授与及び履修認定を実施している。</p> <p>【規則6条及び7条抜粋】</p> <p>(試験の成績の評価)</p> <p>第6条 学期の成績は、その学期において実施した試験の成績及び平素の成績等を総合して100点法により評価する。</p> <p>(学年成績の評価及び評定)</p> <p>第7条 各科目の学年成績は、当該授業科目の実授業時数の4分の3以上の出席がある科目について、試験の成績及び平素の成績を総合して100点法により評価し、次の区分により優、良、可、不可の評語で評定し、優、良、可を合格とする。出席が当該科目の4分の3に満たない場合は、第1学年から第3学年は49点以下、第4学年及び第5学年は59点以下の点数で評価して、不可と評定する。ただし、運営会議が認める理由（長期病欠その他）で、3分の2以上の出席がある場合については、4分の3以上の出席がある場合と同様に評価し、優、良、可又は不可で評定する。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	創造システム工学科	167 単位	有・無	単位
	生産システム工学専攻	62 単位	有・無	単位

	環境システム工学専攻	62 単位	有・無	単位
	グローバル地域創生工学専攻	62 単位	有・無	単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
専攻科		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：学校HPで公表している。<https://www.akita-nct.ac.jp/facilities/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	創造システム工学科	234,600 円	84,600 円	59,250 円～ 271,360 円	後援会入会金 8,000 円 後援会費 27,000 円 学生会入会金 2,500 円 学生会費 7,000 円 スポーツ振興センター共済掛金 1,550 円 スタディサプリ利用料金 6,120 円 (1年生のみ) 教科書代 (約 13,200 円～ 41,830 円) 【入寮者のみ】 入寮費 3,000 円 寮費 158,760 円 寮生会入会金 1,000 円 寮生会費 5,000 円 寄宿料 8,400 円 (複数人居室) /9,600 円 (個室)
	生産システム 工学専攻 環境システム 工学専攻 グローバル地域創 生工学専攻	234,600 円	84,600 円	44,550 円～ 239,510 円	後援会入会金 4,000 円 後援会費 13,500 円 学生会入会金 1,500 円 学生会費 3,500 円 スポーツ振興センター共済掛金 1,550 円 教科書代 (約 20,500 円～ 38,100 円) 【入寮者のみ】 入寮費 3,000 円 寮費 158,760 円 寮生会入会金 1,000 円 寮生会費 5,000 円 寄宿料 8,400 円 (複数人居室) /9,600 円 (個室) 【本科から引き続き専攻科に入 学した場合は不要なもの】 ※後援会入会金 4,000 円 ※学生会入会金 1,500 円 ※入寮費 3,000 円 ※寮生会入会金 1,000 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

「秋田工業高等専門学校における障害学生に対する修学支援要項」に基づき、身体障害、知的障害、精神障害（発達障害を含む。）その他の心身の機能の障害（以下「障害」と総称する。）があり、障害及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にある学生から支援の要請があった場合に（１）障害の現状把握に関すること、（２）学習状態、学校生活及び寮生活に関すること、

<p>(3) 就職活動の支援に関することなどの支援を実施している。 また、「秋田工業高等専門学校授業料等免除及び徴収猶予に関する規則」に基づき、経済的理由等により納付が困難な申出者の免除、徴収猶予及び月割分納を実施している。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>学生に現場における生産の技術を総合的に修得させ、技術者としてのあり方や自発的な研究態度を養うことを目的とする「校外実習（インターンシップ）」を実施している。</p> <p>さらに、工場及び施設の設備、生産工程等見学し学校で習得した専門の知識、技術をより効果的に向上、発展させるとともに実社会の生きた知識を身に付けさせることを目的に、授業の一環として「工場見学旅行」を実施している。</p> <p>また、県内就職定着を目的とした「県内企業説明会」の実施、及び4学年学級担任が保護者面談を実施し、進路指導を行っている。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>保健室では、常勤看護師に加えて非常勤看護師を配置し、保健室機能を強化して、緊急体制の万全化を図り、更に健康管理における個別指導や、メンタルヘルスの問題への対応等、学生に対する支援の充実を図っている。</p> <p>学生相談室では、学内の相談室員に加え、精神科医、専門のカウンセラーを配置して、学校における健康管理に関する専門事項について適切な助言及び指導をいただき、学生の心の悩み等に総合的に対応している。あわせて、アンケート・調査を行い、必要な学生に対して面談を行う等、問題の早期発見に対応している。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>公表方法：学校HPで公表している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育研究上の目的に関すること（第172条の2第1項第1号関係） https://www.akita-nct.ac.jp/school/mokuteki/ https://www.akita-nct.ac.jp/school/rinen/ 2. 教育研究上の基本組織に関すること（第172条の2第1項第2号関係） https://www.akita-nct.ac.jp/course/ https://www.akita-nct.ac.jp/course/senkouka/ 3. 教員組織、教員数並びに各教員の学位及び業績に関すること（第172条の2第1項第3号関係） https://www.akita-nct.ac.jp/school/soshiki/ https://www.akita-nct.ac.jp/laboratory/ 4. 入学者に関する受入方針及び入学者数、収容定員及び在学学生数、卒業又は修了者数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること（第172条の2第1項第4号関係） https://www.akita-nct.ac.jp/exam/policy/ https://www.akita-nct.ac.jp/school/gaikyo/ 5. 授業計画、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画に関すること（第172条の2第1項第5号関係） https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=08 6. 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること（第172条の2第1項第6号関係） https://www.akita-nct.ac.jp/syugakushien/

<https://www.akita-nct.ac.jp/school/rinen/>

7. 校地，校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること（第172条の2第1項第7号関係）

<https://www.akita-nct.ac.jp/facilities/>

8. 授業料，入学料その他の徴収する費用に関すること（第172条の2第1項第8号関係）

https://www.akita-nct.ac.jp/exam/seido_keihi/

<https://www.akita-nct.ac.jp/student/menjo/>

9. 学生の修学，進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること（第172条の2第1項第9号関係）

<https://www.akita-nct.ac.jp/facilities/soudansitu/>

10. 学生が修得すべき知識及び能力に関する情報（第172条の2第2項関係）

<https://www.akita-nct.ac.jp/school/mokuteki/>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	G105110101166
学校名	秋田工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		49人	49人	54人
内 訳	第Ⅰ区分	28人	24人	
	第Ⅱ区分	-	-	
	第Ⅲ区分	-	-	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				54人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定		0人	-
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)		0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況		0人	0人
「警告」の区分に連続して該当		0人	0人
計		0人	-
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑つて認定の効力を失つた者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	前半期	後半期	
	0人	0人	

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)		0人	0人
G P A等が下位4分の1		0人	11人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況		0人	-
計		0人	11人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。